

[寄稿]

## 『夜はやさし』の舞台を追って

高野 泰志

今年の4月から1年間、サバティカル休暇を頂いたために、フランスのアンチーブ（正確にはその隣のジュアン・レ・パン）で暮らしております。ニースとカンヌの間、若干カンヌよりの地中海に面する街で、フランス有数のリゾート地でもあります。この場所に住むことを決意したのはもちろん、『夜はやさし』の舞台となっているからです。ディック・ダイバーのような生活を送るわけにはいきませんが、フィッツジェラルドゆかりの場所で生活するのはとても素晴らしい経験です。

ちなみにジュアン・レ・パンにはフィッツジェラルドが20年代なかばに住んでいた家が現存しており、現在はBelles Rivesという名の5つ星ホテルになっています。あまりにも立派なホテルで少々敷居が高かったのですが、思い切って宿泊したところ、非常に素晴らしいホテルでした。ひとつの家族だけでどうしてあの空間が使えたのか、不思議になるほど巨大な建物でした。

さて、『夜はやさし』第一部の主要舞台であるガウス・ホテルを実際に見るのがずっと楽しみにでしたので、アンチーブに来て間もないころに舞台探しをやってきました。まずBruccoliほかの先行研究によると、ガウス・ホテルのモデルはHotel du Capとされており、アンチーブのEnglish Bookstoreで入手した*French Riviera and Its Artists* (John Baxtor)によると、現在はHotel du Cap-Eden-Rocと改名されているということでした。

そこで早速このホテルを訪れてみます。なんだったら泊ってみようかと深く考えもせずに向かったのですが、まず驚いたことにバスのアクセスが非常に悪く、アンチーブの鉄道駅から2番のバスに乗って終点で降りる以外に方法はありません（本数が非常に少ない!）。そして着いて目にしたのは写真の光景です。



思わずなんじゃこれは？と声を上げてしまうくらい威圧感のあるホテルで、おいそれと入れるような雰囲気ではありません。

Hotel du Cap-Eden-Roc



Hotel du Cap-Eden-Roc (こちらは警備員の目を盗んで柵の中に手を突っ込んでとった写真です)

あとで知ったことですが、このホテルはマリリン・モンローやアメリカ大統領など、有名人がお忍びで宿泊するところとして知られており、中でのいっさいのプライバシーを守ってもらえるのが売りになっている、セレブ御用達のホテルです。当然部外者の立ち入りは一切許されていません。基本的に車を雇って車ごとホテルの中に入るようになって

るので、呼び鈴すらありません。そりゃあアクセスが悪いわけです。

もちろんそれで引き下がるわけにはいきませんので、外側を大きく回って海の方から内側を覗いてやろうと（ほとんどパパラッチのようですね）、まずは海岸に出てみました。そこでこの日二度目の驚き。

――このホテルにはビーチがありません。



Hotel du Cap-Eden-Rocの裏

この時点で私の頭は大混乱でした。だって『夜はやさし』のガウス・ホテルって、ほとんどビーチの記述しかないじゃないですか（決闘の直前でやっと敷地内の描写がありますが）。ほとんどビーチしか出てこないのにビーチのないホテルをモデルにする意味ってなんでしょう???

*French Riviera and Its Artists*によると、当時の金持ちたちは岩を削って作ったプールで泳いでいたのだそうで、ビーチで泳ぐのは貧乏人だけだったそうです。せっかく海に行くんだからビーチで泳いだほうがよさそうなものですが、このエデン・ロックにも立派なプールが作られ、そこで

お金持ちたちは、付近のビーチで泳ぐ貧乏人たちを眺めて「あいつらプールに入る金もなくてかわいそうやのう」と優越感に浸っていたそうです（若干私の主観が混じってます）。

でも*Living Well Is the Best Revenge*にはジェラルド・マーフィが宿泊していたホテルのすぐ側のビーチを開拓した話がかかれていましたし、『夜はやさし』のビーチもそれに基づいて書かれていたはず。一度自宅に戻って該当箇所を確認すると以下のようになっています。

Right out on the end of the Cap there was a tiny beach—the Garoupe—only about forty yards long and covered with a bed of seaweed that must have been four feet thick. We dug out a corner of the beach and bathed there and sat in the sun, and we decided that this was where we wanted to be . . . There was a small hotel on the Cap that had been operated for thirty-five years by Antoine Sella and his family; ordinarily, it closed down on May 1st, when the Sellas went off to manage a hotel in the Italian Alps. That summer, though, the Murphys persuaded Sella to keep the Hôtel du Cap open on a minimum basis, with a cook, a waiter, and a chambermaid as the entire staff, and they moved in with their children, sharing the place with a Chinese family who had been staying there and had decided to remain when they learned that the hotel would stay open.

ここで出てくるグループというのが舞台となったビーチのようですが、実はここはエデン・ロックからおよそ20分程度歩いたところ、アンチーブ岬の西端がエデン・ロックとすると、ちょうどその反対の東端に位置します。一方でフィッツジェラルドの記述では“The hotel and its bright tan prayer rug of a beach were one”となっており、まったく一致しません。



またもうひとつ気になるのが、「アントワヌ・セラとその家族が35年間営んできた小さなホテル」という記述。文脈上はこれがHotel du Capを指すことは間違いないのですが、先程も述べたように、エデン・ロックは「小さなホテル」とは到底言えません。もしかするとHotel du CapとHotel du Cap-Eden-Rocが別のホテルなのではないかと疑わしくなってくるのですが、これも調べてみたところ、たしかにエデン・ロックの最初の経営者はアントワヌ・セラであったようです。

とりあえず謎を探るためにガループに向かってみました。こっちは例の2番のバスを、ガループに一番近づいたと思われるあたりで降りて歩くしかありませんでしたが、やっと到着したガループは大勢の人で賑わう素敵なビーチでした。あまりいい写真が撮れなくてすいません（あちこちにトップレスの人がいるのでカメラを向けにくいのです！）。



とても美しいビーチではありますが、40ヤードしかない海藻だらけのビーチとはぜんぜん違うので、このビーチも当時とはずいぶん形を変えてしまったのだろうことがしのばれます。この付近に他にモデルになった可能性のあるホテルはないかと探したのですが、エデン・ロックと同じくらい大きなHotel Imperial Garoupeは、やはりビーチからは少し離れたところに位置しています。条件にぴったりなのはHotel du Levantだけなのですが、これはかなり安っぽい小さなホテルで、いろいろ調べてみましたがフィッツジェラルドとの関連は今のところ見当たりません。

というわけで、いささか残念な結論だったのですが、小説に描かれたような情景を目にすることはできませんでした。このエデン・ロックとガループを結ぶ20分ばかりの距離は、フィッツジェラルドの頭のなかでホテルと一体化するくらいに縮められてしまったということなのでしょう。

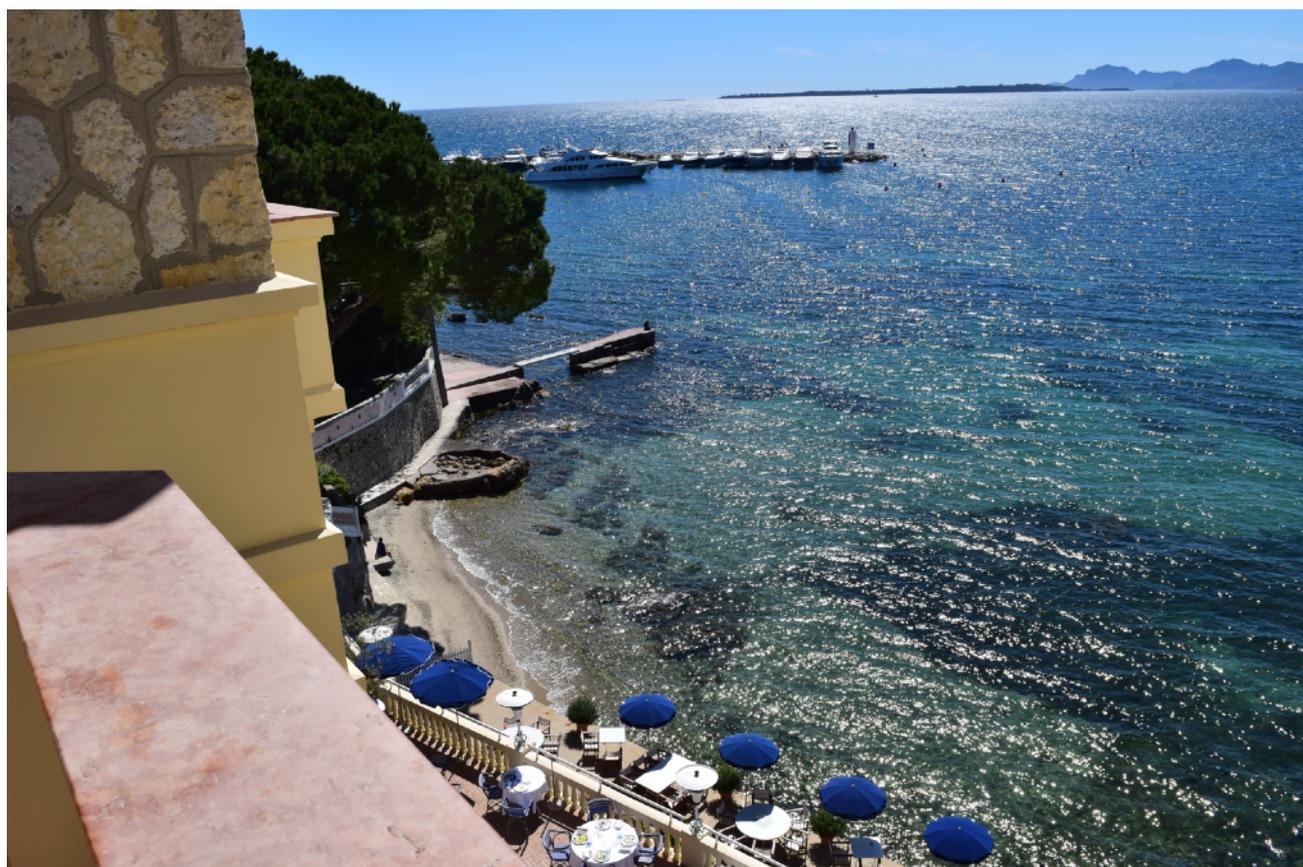
それをある意味表しているのが『夜はやさし』冒頭の以下の一節ではないかと思います。

In the early morning the distant image of Cannes, the pink and cream of old fortifications, the purple Alp that bounded Italy, were cast across the water and lay quavering in the ripples and rings sent up by sea-plants through the clear shallows.

先程の地図でおわかりのように、アンチーブの岬は地中海に向けて大きく張り出していますが、カンヌは西側、イタリアの国境（ニースの方角）は東側に位置しているので、岬の先端にいない限り両方が見えることはありません。エデン・ロックからはカンヌが、グループからはニースがもしかしたら見えるかもしれません。

ちなみにグループからエデン・ロックまでは海岸沿いに遊歩道ができていて、相当な時間と体力を使いますが、非常に美しい景色を眺めながら歩くこともできます。アンチーブに立ち寄る機会がありましたら、運動靴をご用意の上、ぜひこの遊歩道も歩いてみてください。

この件に関しまして（あるいは他のフィッツジェラルドゆかりの地に関してでも）、ここを見てみたらとか、これを調べてみたらとかいうご意見がありましたらぜひご連絡ください。あと3ヶ月近くこちらで生活しますので、その間に調べられることがありましたらまたニュースレターに投稿させていただきます。



ベル・リーヴからの景色



ベル・リーヴ 外



ベル・リーヴ 内

